

〔編集後記〕

◇昨年は当国際関係研究室の主力メンバーの海外出張が重なった。そのうち玉井竜象氏は昨年十一月帰国されたが、竹浪祥一郎・山口光朔両氏は現在なおそれぞれポーランドとアメリカに滞在中である。そのためというわけでもないが、第一〇号の発行が予定よりかなりおくれたことをお詫びしたい。

◇本号は論説として帝国主義対立と平和共存の問題をとりあげた。帝国主義矛盾と両体制矛盾の関係という問題は、かつての歴史的な「自立—従属論争」のピークを示す中心テーマである。それは不毛な政治的処置によって「決着」がつけられたが、理論的には少しも解決していない。勝部氏の論稿を契機に再び活発な本格的論争が展開されることを期待したい。柳田氏の

論稿は平和共存を現代の移行期世界の一般的法則として把握しようとする野心的な問題提起である。

◇海外論文三篇は、いずれも社会主義的民主主義をテーマとしたものである。社会主義的民主主義の問題は、現存の社会主義体制評価の基準として、また新しい社会主義像の内容として、今日大きな関心がよせられている。それぞれに興味深い論点を提出しており、読者の期待にこたえうるものと思う。

資料として、わが国では殆んど紹介されていないデンマーク社会主義人民党（SPP）の現状を収録した。あわせてご一読をお願いする。

◇巻末に竹浪氏から最近届いた「ポーランド通信」を掲載した。同氏のご活躍とご健康を祈る。（KTY）

国際関係研究

第一〇号

昭和四十二年二月十日 印刷
昭和四十二年二月十五日 発行

編集・発行人

勝 部 元

発行所

桃山学院大学
国際関係研究室

大阪市阿倍野区昭和町中三―五
電話大阪06六二―一八八番
(内線 一一二番)

印刷所

丸和出版印刷株式会社
神戸市兵庫区西出町七七
電話(七〇) 681―一九九一(代)